

つるのおんがえし

「ご縁」をいただいたあなたへお届けする、「大きな想い」の「小さなお手紙」



銀座の似合う男に
なりたいなあ～



先日、中学校の同窓会がありました!!
司会を仰せつかりまして、「つる、流石じゃん!」と喜ばれましたー!



こんにちは、芦川永光です。すっかり残暑が過ぎ去って、過ごしやすく短い秋の始まりです。ポスティング事業は秋の繁忙期を迎えて、新しいクルーが次々と仲間になってくれる時期にもなりました。伊勢原の駅前から始まったポスティング事業は、ここで丸8年になります。新人さんにポスティングの素晴らしさを伝え、モチベーション高く仕事が続けられるように今一度、職場環境のさらなる向上に努めたいところです。

このつるのおんがえしは北は北海道、南は長崎・宮崎までお届けしていますので、今年の台風上陸が増えている現状に対して、その土地それぞれの影響を感じていらっしやるかと思えます。私の住む神奈川県伊勢原市という場所は、北側に「雨降山」と称される大山がありまして、これがあるおかげで比較的天候が安定しています。しかしながら最近の大雨の影響はさすがに大きく、市内の海抜の低い場所では川が増水して、膝まで水が浸かったりと、かなり危険な状況になることがあります。

災害対策、万全ですか？
今では懐かしい平塚に勤めていた頃、10年以上前のことですが、周りの田んぼから水があふれるほどの大雨が夜中に降って、シャッターから入ってくる水を土囊で防いで、チラシを高いところに避難させる、なんてことをヒーヒー言いながらやっていたことが思い出されます。お客様からお預かりした大切なチラシを保管しておく会社としては、いつ何時、どんな状況になるかわかりませんが、今こそ「災害対策マニュアル」ポスティング会社版のようなものも必要と感じます。パソコンに入ったシステムを当てにして依存するのではなく、アナログ全開で機械が壊れたってへっちゃら平気!と乗り切れるしなやかな会社でありたいですね。台風シーズンでも、ドローンが飛び交う近未来においても、地を這うように、「一軒一軒気配り手くばり」で突っ走ります!

料金後納郵便

ゆうメール

株式会社感動・創庫

〒259-1145 伊勢原市板戸 208-103
TEL: 0463-79-9777
http://kando-soko.com
発行編集責任者: 芦川永光

心に響く感動の格言

Words by アレックス・ラミレス

球団史上初のクライマックスシリーズ進出を決めたプロ野球、横浜DeNAベイスターズのアレックス・ラミレス監督の名言です。

自分のスタイルを変えずに帰国する一流選手が多い中、バリバリのメジャーリーガーとして来日した彼が才能を開花させたのは、監督からの「日本で成功をしたいなら…」ともらったアドバイスがきっかけでした。

日本野球を徹底研究し大活躍をしたラミレス選手は引退後、企業の社長なども経験し今季、強いメンタリティが育つチームを率いる名監督になりました。

組織の強みを引き出すために意思疎通をはかり、自分の役割と在り方を認識した時、個人の能力も結果として向上していくものだ、私は最近特に思っています。

組織の文化を丸ごと受け入れて、その組織にフィットするように自分を変えることが重要です。どんな職業の人にも言えることではないかと思います。



「シン・ゴジラ」、面白すぎて2回観ちゃいました。邦画はほとんどDVDを借りてしか見ないんですが、今回ばかりは映画館でゴジラの大きさを体験したく、最前列で仰け反りながら観ちゃいました。エヴァンゲリオンをご存知の方でしたら、「庵野監督やってくれたなあ」と思うことでしょう。入念に練られたであろうカメラワークが面白く、難しい専門用語が飛び交う緊迫のシーンなどを見ると、多方面に取材を細かくされたんだらうなあと感じます。小池百合子の名前を見つけた時に、やっぱり！と納得です。

まだ見ていない方に、私なりの観賞ポイントをいくつか。ゴジラは日本のどこにやってくるか。もし他の場所だったらどうだったでしょうか？

○ゴジラが手に負えない、と認識し、決断するスピードと時系列。

○なかつたことにすることが得意な日本人の、弱点と強みのコントラスト。

これを観た方であれば、「そこじゃないよ！」「俺だったらこう分析する」と意見が分かれると思います。そのくらい、いろいろな気づきがあ

編集後記

いやー、映画って本当にいいもんですね〜



人気のシン・ゴジラですが、いろんな企業とのコラボCMが面白いですね。「シン・ゴジラ」にハマっているアシカワが、探してくれた広告です。一人で映画館へ行ったアシカワでしたが、とても面白かったらしく、せられる映画でした。

「行こう行こう！」と言われ、行ってきましたよ。エグい映像が苦手な私ですが、ゴジラが主役の映画でなかったたので、私は見やすかったです。災害の多い昨今に、考えさせられる映画でした。

